

アメリカ・サンディエゴからメキシコとの国境を越えて最初の街がティファナである。

アメリカとメキシコの国境を越えた瞬間から全く違う風景が広がっていた。空気までもが違うのではないと思うほどであった。

日本のように周りを全て海に囲まれた国で育っていると、国境を越える瞬間というものは実感のないものだが、歩いて国境を越えるというのは新鮮な感覚だった。メキシコの建築はルイス・バラガンが代表されるように、ピンクや黄色などの原色を大胆に使ったものが多い。ティファナという街に入ってメキシコのほんの一部分しか見ていないが、その色彩感覚や明るい色使いを実際に見て体感することができた。街自体は決してきれいとは言えないが、観光地であることで商売気にあふれた人も多いせいか、メキシコの人々は気さくに声を掛けて、明るい人が多く大変賑わっていた。

そういう明るい人たちが、明るい色彩で建物を造り、それが連なってこの街を作っている。

街を形成するのはその土地の気候や環境、そこに生まれ育った人たちの気質が大きく影響しているのだと改めて感じる事ができた。

